

- ▶第66回学校代表者協議会より(1~3面)
- ▶公募 (3面)
- ▶キリスト教看護教育推進会議 (〃)
- ▶関西地区新任教師研修会 (〃)
- ▶関東地区教師研修会 (〃)
- ▶キリスト教学校教育懇談会 (4面)
- ▶第22回講演会 (4面)
- ▶青山学院創立150周年記念行事 (〃)
- ▶キリスト教Q&A、行事予定 (〃)

# キリスト教学校教育

1

(一社)キリスト教学校教育同盟  
〒169-0051  
東京都新宿区西早稲田2-3-18  
日本キリスト教会館72号室  
電話 03(6233)8225  
FAX 03(6233)8226  
理事長 西原 廉太  
編集人 田村 浩一  
頒価200円(加盟法人の購読料は会費に含まれています)  
(毎月1回15日発行)

2024・2025年度教研テーマ  
新たな時代におけるキリスト教学校の使命と連帯—いのちの輝きと平和を求めて—

2025年を迎えました。新しい年もキリスト教学校教育同盟につらなるすべての学校法人、児童、生徒、学生、教職員、役員の上に、主の限りない励ましと支えが与えられることを願います。

昨年1月1日には能登半島地震が発生し、9月には追い打ちをかけるように能登半島豪雨が襲いました。犠牲、被害に遭われた方々を覚え、1年を経ても未だ避難し、不自由な生活を強いられている方々の日常が、一日も早く回復されるように、主に祈り求めます。今年17日には阪神・淡路大震災からちょうど30年を迎えます。11月の第66回学校代表者協議会は神戸市の学校法人啓明学院に会場校をお引き受けいただきましたが、啓明学院でも命を落とされた生徒がおられたと伺いました。

代表者協議会の理事長挨拶で、私は2011年に東日本大震災が発生した直後のある祈りの集いで、被災地でボランティア活動に従事していた聖公会の女性の方のメッセージを紹介しました。当時、宮城県七ヶ浜町でお風呂に入れない方々に足浴させ、話を聴くというストレスケアの働きを通しての証しでした。私は、その証言の中に、私たちキリスト教学校の果たすべき役割、働きが示されているように確信したからです。

当時、テレビなどでも「日本は強い」など、「強くあ

## 新しい年を迎えて



西原 廉太

ること」が繰り返し声高に叫ばれました。そんな風潮に対して、私たちは、むしろ「弱さ」や「小ささ」に徹底して寄り添い続けることの意味を、身をもって証しし続け、私たちの大切な子どもたちに伝えて行く責任があることを確かめたのでした。

私たち自身が、主から足を洗ってもらった弱い存在であることを胸に刻みながら、今、困難の中にある人々の足を洗い、手を温め、ゆっくりとその物語に耳を傾けながら、共にあり続けたい。私たちの学校が、私たち一人ひとりを、「愛して、愛し抜かれた」主に従って、そんな「足湯の学び舎」となることができた時に、そこに確かに主はたくさんの小さな奇跡を起こし続けてくれるに違いないのです。

キリスト教学校の内外をとりまく状況は、ますます厳しさを増している中で、いかに私たちがそれぞれのミッションを豊かに果たすことができるのかを、本年も一緒に考えたいと思います。今、私たちはさまざまな試練の中にありますが、長い夜にも必ず、朝は訪れます。希望と共に、必ず朝は訪れます。恐れることなく、私たちが「愛して、愛し抜かれる」主に信頼しながら、さらなる旅に踏み出してまいりましょう。

〈立教学院院長、立教大学総長、教育同盟理事長〉



辻 学氏

啓明学院の歴史物語が描き出す「アイデンティティ」



2024年4月19日発刊

「学校史」にも同じことが言えるでしょう。学校の歴史物語を描くという作業は、自分たちの学校が何を大事にし、何を目標としてきたかという学校のアイデンティティを浮き彫りにして、そのアイデンティティを構成する要素を共有するよう呼びかけるメッセージを発する作業なのです。そのこと

を、昨年発刊した『啓明学院百年史』を編纂する過程で強く感じました。

(2) キリスト教主義学校としての伝統 高度な学識や技能を実践に活かしていくためには、優れた人格の育成が必要で、啓明学院はキリスト教主義教育によって

旧約聖書ではここ20年ほど、聖書が描く古代イスラエル史の史実性をめぐって激しい議論が交わされてきましたが、そこからわかるのは、歴史とは物語であり、その歴史物語にはメッセージが込められているというこ

とです。旧約聖書の物語には、自分たちはどうい

う民族であるかを歴史として語ることで、民族としての一体性を強化する意図が見取れます。

「学校史」にも同じことが言えるでしょう。学校の歴史物語を描くという作業は、自分たちの学校が何を大事にし、何を目標としてきたかという学校のアイデンティティを浮き彫りにして、そのアイデンティティを構成する要素を共有するよう呼びかけるメッセージを発する作業なのです。そのこと

を、昨年発刊した『啓明学院百年史』を編纂する過程で強く感じました。

(2) キリスト教主義学校としての伝統 高度な学識や技能を実践に活かしていくためには、優れた人格の育成が必要で、啓明学院はキリスト教主義教育によって

第66回学校代表者協議会より  
(2024年11月1日(金)2日(土)開催)

周年誌編纂の意義とは？  
『学校の歴史物語』を描く  
『啓明学院百年史』を編纂して  
啓明学院院長 辻学



女子英学院時代の生徒たち



タイプライター科の授業

つながっており、インドや韓国の学校と現在結ばれている協定は、その顕著な例と言えます。

◆ 締切間近です ◆ Web申込ができます  
学内教職員研修会講師派遣制度  
2025年度派遣申込受付中

◆ 加盟校動静 ◆  
新島学園  
2024年11月28日(木)、新島裏の上州安中帰郷から150周年を島学園が設立された。



玄関前の100周年記念レリーフ「おかえり」



ランバス師の遺髪

再建に貢献した第2代理事長J・B・Cobbの名前を冠した多目的ホールになっています。

代表者協議会2日目に啓明学院100周年記念館の見学がありました。

2023年9月に竣工した記念館は、1階はパルモア学院、2階はパルモア女子部、3階はパルモア女子英学院、4階は啓明学院と続く学院資料を整理・保管するアーカイブ室で、ここには学院の源流である「読書館」を創設したW・R・ランバス



パルモア時代(左)と現在の院章が階段手すりの意匠に

## 学校法人 啓明学院 100周年記念館



時代毎のタイプライター



制服の変遷や昔の修学旅行車両のヘッドマーク



**公募**

※採用予定日は全て4月1日です。

▽立教女学院中学校・高等学校  
職种Ⅱ英語科 専任教員 1名  
又、常勤講師 1名  
応募締切 11月15日  
問合せ 03-3247-0905  
▽関東学院六浦中学校・高等学校  
職种Ⅱ理科 (生物) 契約 1名  
教諭 1名  
応募締切 11月27日  
問合せ 045-781-2525  
▽山梨英和高等学校  
職种Ⅱ理科、情報科 専任教員 1名  
又、常勤講師 1名  
任教諭又は期間採用教諭 各1名  
応募締切 11月24日

▽同志社女子中学校・高等学校  
職种Ⅱ社会科 (中学) 嘱託講師 1名  
応募締切 11月24日  
問合せ 075-251-4205  
▽立教新座中学校・高等学校  
職种Ⅱ常勤嘱託職員 (図書館勤務) 1名  
応募締切 11月10日  
問合せ 048-473-5282

▽立教新座中学校・高等学校  
職种Ⅱ国語科 常勤講師 1名  
又、英語科 常勤講師 1名  
応募締切 11月24日  
問合せ 048-473-5282

山梨英和高等学校は、一人ひとりに与えられた恵みを生かして心豊かに学んでほしいという祈りを込めて2023年4月に山梨県下で唯一のキリスト教主義女子通信制課程「グレイスコース」を開設しました。

全日制では、一定の欠席日数を超えた生徒は進級できず、その多くは残念な思いで学校を去っていきます。そして、本校でも他の通信制高校へ転学する道を選択せざるを得ない状況でした。キリスト教学校として、神様が一人ひとりを愛してくださっていることを日々



No one will be left behind.  
～神様から愛される存在として  
グレイスコースで学ぶ～  
山梨英和高等学校 中学校 三井貴子 前校長



山梨英和学院

の礼拝で伝えながらも、どうすることもできない虚しさを痛感してききました。そこで、自分のペースで学ぶことが可能な通信制課程「グレイスコース」の開設を決断するに至りました。

基本理念は全日制と同じとしました。校訓「敬神・愛人・自修」です。神様に感謝して与えられたタラントを見出し、一人ひとりを重んじ誰一人取り残さない、そして自分らしく安心して学べる環境作りを大切にしています。通信制ではありますが、週3日の自由登校日を設け、登校日には全日制とは別の時間帯に学校で礼拝の時間を持っています。自宅からもオンライン(ライブ)で共に礼拝を守ることができ、また、年に2単位、3年間で6単位の聖書の授業が必須となっています。創立記念礼拝、全校修養会、クリスマス礼拝



グレイスコース教室

本校の全日制に転籍が可能なことも大きな特徴です。

2023年4月の開設時には6名の生徒でスタートしました。山梨英和女子学校は1889年にやりましたので、同じ数の生徒を与えられたことに神様の大きな恵みとご計画を感じます。一年後の2024年3月には、最初の卒業生3名を送り出しました。3人ともそれぞれの進路を切り開き、卒業式は全日制で関わった教師も喜びを分かち合いました。また、3名の生徒が本学の全日制に転籍しました。2024年11月現在、53名の生徒が学んでいます。

2023年度は1都3県のみでしたが、今年度は1都9県、さらに海外(17カ国)にも門戸を広げました。また、姉妹校である東洋英和女学院(東京・六本木)でのスクーリングも可能になりました。教育の個別最適化が求められる今日、キリスト教主義学校が通信制課程を持つことの大きな意義を感じます。No one will be left behind.

などの学校行事には全日制の生徒と一緒に参加することがあります。

多様化する生徒のニーズに対応するために、中学での基礎から学ぶ「ベシック国語・数学・英語」、第二外国語として「ドイツ語・ハンガール」、外国人講師や時間設定を自由に選べるマンツーマン指導の「オンライン英会話」、茶道・華道・着付けを学ぶ「日本文化探究」、心と体のバランスを考える「ココカラプロプログラム」、ボランティア演習、ニュージランドへのタム留学、情報演習、課題研究、進路探究など、特色ある学校設定科目を開講しています。

また、大学入試に備え予備校とも提携しています。生徒たちは、自分の興味関心に沿ってオリジナルカリキュラムを作成し、個々のペースで学んでいます。条件はありますが、高校2年の4月に

**新たな時代におけるキリスト教学校の使命と連帯**  
2024年度関西地区新任教師研修会 中高研修

関西地区の新任教師研修会が2024年11月16日(土)～17日(日)に日本クリスチャンアカデミー関西セミナーハウス(京都市左京区)にて開催され、加盟校13校より53名(過去最多)の教職員が参加しました。

初日は同志社国際中・高等学校宗教センター主任の朴元姍怜委員による開会礼拝に始まり、自己紹介セッションの後、大阪女学院中学校・高等学校の村恵正博先生より生徒指導および学校広報についての発題がありました。夕食後はキリスト教教育の課題と可能性を考えるグループセッションを行って問題意識を共有した上、啓明学院中学校・高等学校校長の指宿力委員によるメディテーションのひと時をもってプログラムを終えました。夜には自由参加の情報交換会もあり、活発な交流が見られました。

2日目のプログラムは大阪女学院中学校・高等学校宗教主任の宮岡信行委員による主日礼拝に始まり、午前中は前日の内容および礼拝のメッセージをふまえたグループ討議の時間を持ちました。プログラム全体を通じた気づきや疑問を共有する中、共通の問いを巡って創造的な対話が展開され、新たな洞察が得られました。昼食後の最終セッションでは参加者一人ひとりが全体でひとこと感話を述べる時を持ち、北陸学院中・高等学校の阿部俊副校長の助言および関西学院中学部宗教主事の福島旭委員による派遣の祈りをもって全日程を終えました。研修会の運営は清教学園中・高等学校の芝野貴臣委員が総括してくださり、加盟校からの多くのスタッフの協力により円滑に進みました。



「新たな時代におけるキリスト教学校の使命と連帯」というテーマのもとで行われた今回の研修会を通して感じたのは、キリスト教学校は公立校や他の私学にはできない教育をしないと未来がないということです。キリスト教教育の理念と現代日本社会の平均的な価値観との間には大きな隔りがあるため、理念と利益の二項対立で現状を捉えているのは、キリスト教学校に未来はありません。むしろ、理想と現実のギャップ自体を問題化してキリスト教の文脈に依存しない一般的な形で社会に鋭く問題提起し、人々の無意識のニーズに実質的に応えていくことこそが、日本のキリスト教学校に今求められていることなのでしょう。そのため、学校間の連帯を大切にしたいと思われました。

林 皆仁 (キリスト教愛真高等学校教諭)

**「管理職のリーダーシップとは」**  
2024年度関東地区教員研修会 中高研修

2024年11月14日(木)～15日(金)、箱根湯本駅前湯本富士屋ホテルを会場に、各学校リーダーや管理職を対象にした宿泊研修を開催しました。参加者17名(内日帰り2名)。

当日は伊藤多香子委員(関東学院六浦中高)により開会礼拝を守り、その後、主講演「学校運営について」を鈴木弘先生(香蘭女学校中高等科校長)にお願いしました。鈴木先生は立教池袋中高と香蘭女学校で合計16年間の校長経験をお持ちの経験豊富な先生です。

講演の中で鈴木先生は各校のカラーをしっかりと示していくことの大切さや、学内の報告・連絡・相談の大切さ等の具体的事例を紹介しながら、情熱的且つ力強く、時にユーモアも交えながら本音で語られました。中でもキリスト教教育の軸がブレないことの重要性、教育のあるべき姿を追求していくことや、現場の先生方の良いところや個性を活かせる職場づくりの大切さ等々、本当に豊かな実践事例を紹介し力説されました。また、学校運営をしていく時には迷いがある、その時は立ち止まることも必要だとの言葉には一同深く共感しました。参加者は自校事情と重ね合わせながら聞くことが出来ました。

講演会後には懇親会を開催し豊かな情報交換の時となりました。

翌朝には分科会及び全体会でまとめを行い、閉会祈禱後の午前10時30分に解散しました。

参加者アンケートからは、鈴木先生のリーダーシップに感激した。各校のカラーを大切にすること、キャビネットを持つことの重要性に気付いた。educate(引き出す)力や絶対的自己肯定感が大切である。どこの学校も同じような課題を抱えていることを再確認できた。その人その人を大切にすること、教育の成立条件は「信頼関係」であることを認識した。4月からの校務で少し疲れていたのご講演から元気をいただいた。現場の先生方の良いところ、個性をいかせる職場づくりを工夫してみよう!と思えるパワーをいただいた気がする。等の沢山の回答が寄せられました。

今回の研修会も良い講師に恵まれたこと、参加しやすいよう交通至便な宿舎にしたこと、宿泊することで情報交換を活発に出来たことなど、意義深い研修となりました。



清水広幸 (聖学院中学校・高等学校副校長)

**「キリスト教における看護」**  
第10回キリスト教看護教育推進会議

第10回キリスト教看護教育推進会議が2024年11月9日(土)13時より、活水女子大学大村キャンパスにて開催されました。『キリスト教における看護』の主題のもと、33名の出席者が対面にて集いました。開会礼拝では崔炳一活水学院宗教学主任から「イエスのいやし」の説教がありました。障がいのある青年が社会から断絶され、深い心の傷を負いましたが、イエスとの出会いにより社会の一員として生きる希望や力を得て、無力感から解放されました。許しは人間に自由を与え、本当のいやしは神の平安の中で常に喜びが与えられることであり、イエスが本当の意味でのいやしは何かを問いかけているというメッセージでした。

発題は、長崎県対馬病院院長八坂真宏先生による「これからの日本医療と看護～離島医療での取り組みと課題～」についてでした。八坂先生の豊富なご経験や広範な知見に基づく「日本の社会現象、将来と医療・介護の問題点」「長崎県の医療政策の歴史と現状」「対馬の地域医療の現状と課題」「医療・看護における将来展望」について、在校生と共に拝聴しました。最後には、医療職としての基本的能力に加え、卓越性、人間性、説明責任、利他主義のプロフェッショナルリズムを目指して成長し、社会や住民の要請に応じ、医療の需要に対応していく責任が強調されました。また、在校生には「根底にある大事なものや初心を忘れないこと、コミュニケーション力向上のために多くの経験や出会いが重要であること」、教員に対しては「多様性を尊重して学生を育てることを期待している」とのメッセージがありました。

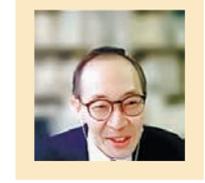
ディスカッションでは、「キリスト教看護教育の特徴を生かした学生募集の戦略や取り組み」をテーマとし、グループにて討議しました。大学の魅力は高い水準の教育機関であり、キリスト教が学生の心の拠り所となるような教員の意図的な関りが重要であること、ヒューマンケアリングやスピリチュアルの考えを看護教育に反映し、大学の強みを明確にすること、小中高生や保護者の印象に残るようなSNSを発信すること、地域の特徴を生かして募集活動を拡大すること等が共有されました。さらに、歴史の重みや新たな改革が融合した大学運営や、キリスト教を基盤とした建学の精神が看護師を目指す人々の心の育成に繋がること等、看護教育の質向上や効果的な募集活動の実現に向けて考える、豊かな時間を過ごすことができました。

間宮みどり (活水女子大学看護学部)



### キリスト教学校教育懇談会 第22回講演会 合理的配慮と インクルーシブ教育を考える 〜一人ひとりに寄り添うキリスト教学校〜

2024年11月30日の多義性を解説し、(土)、今年も日本カトリック学校連合会とキリスト教学校教育同盟が協力して行うキリスト教学校教育懇談会の第22回講演会がオンラインで開催されました。幼稚園から大学までの教職員、カウセラー、事務職員など様々な立場の者が今回のテーマ「合理的配慮とインクルーシブ教育」について、一人ひとりに寄り添うキリスト教学校について、探究する貴重な時間を共有しました。



崎川 修氏



田中 哲氏



鍛治田千文氏

「合理的配慮」とは、配慮提供者側の合理性ではなく、当事者との対話から導かれる合理性だとの言葉は胸にささる指摘でした。キリスト教学校の現場ではマニユアルやラインを設定するのではなく、対話を通じてその都度つなぐを構築・刷新しつつ、語り得ない多様な困難にいかにかかわるべきかを感じながら、「出会う」「行けるのか」「出会う」「行けるのか」を問いながら、子どもと家族のメンタルクリニックやまね先生(子どもと家族のメンタルクリニックやまね先生)の「医療現場から子どもと家族のメンタルクリニックやまね先生」の報告も子供に寄り添っていき、使命を担うことなりました。

「合理的配慮」とは、配慮提供者側の合理性ではなく、当事者との対話から導かれる合理性だとの言葉は胸にささる指摘でした。キリスト教学校の現場ではマニユアルやラインを設定するのではなく、対話を通じてその都度つなぐを構築・刷新しつつ、語り得ない多様な困難にいかにかかわるべきかを感じながら、「出会う」「行けるのか」「出会う」「行けるのか」を問いながら、子どもと家族のメンタルクリニックやまね先生(子どもと家族のメンタルクリニックやまね先生)の報告も子供に寄り添っていき、使命を担うことなりました。

最後にキリスト教学校教育同盟の西原康太理事長が、育ちのエネルギーを生み出す振り子運動(甘えん坊の面と背伸びの面を行ったり来たり)があること、心の循環運動がうまく進むためには、子どものBeing(存在)が大切にされること、重要であるとの指摘に深くうなずかれました。

もう一つの事例報告、鍛治田千文先生(YMC A学院高等学校校長)の実践例には大いに刺激を受けました。不登校の経験を持つ様々な生徒たちの必要に添えるべくユニバーサルデザインによるプリント作成やサイレントフロアの設置など、具体的実践例の数々には、なるほどその手があったかと思われ、同時に、継続的な対話によってつながることが大切だとの崎川先生の基調講演の実践をそのまま見たいな思いでした。

2024年11月16日(土)、青山学院を創設した宣教師の想いは、150年の時が過ぎゆくとも、今この学び舎に息づいていることを確信する瞬間だった。

### 仕える心、今も 〜サーバント・リーダー〜 青山学院創立150周年 「希望の未来図コンテスト」

そして、ここ2年、様々な企画が進められ、この日この場にクライマックスを迎えた。1400名分の座席が、来賓や招待者、校友、教職員で満場となる中、在校生の奏

片や終幕では、それが150年が経過した青山学院に学ぶ、今日の在校生が舞台に上がる。「希望の未来図コンテスト」―当初、そのコンセプトは「未来の誰かをちよっぴりハッピーにするアイデアを募集します」というテーマと、A3用紙にアイデアのタイトル、ハッピーにできる理由、概要、込めた思いの4つを描くことだけを決め、大学から幼稚園までの在校生に呼びかける

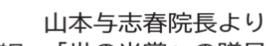
「希望の未来図コンテスト」―当初、そのコンセプトは「未来の誰かをちよっぴりハッピーにするアイデアを募集します」というテーマと、A3用紙にアイデアのタイトル、ハッピーにできる理由、概要、込めた思いの4つを描くことだけを決め、大学から幼稚園までの在校生に呼びかける



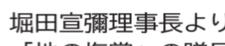
全応募アイデアの展示



渡辺健高等部長より「BLUE ACTION賞」の贈呈



山本与志春院長より「世の光賞」の贈呈



堀田宣彌理事長より「地の塩賞」の贈呈



130組中、8賞11組が受賞

「誰かをちよっぴりハッピーに」―この言葉に、ごく自然に共感する学生・生徒・児童・園児たちの想いは、冒頭の動画に見た宣教師やそれを支えた日本人の想いに重なる。その日、表彰式に臨む彼らの姿は、自分に与えられた賜物を生かし誰かを

小さな企画だった。気付けば予想をはるかに上回る数のアイデアが集まり、また、そのアイデアを見た在校生からの応援メッセージが数多く寄せられた。コンテストの表彰式が始まり、受賞者の名前が呼ばれる。自分が受賞すると思っていなかったのか、恥ずかしそうに表彰状を受け取る彼らの表情に、ちよっぴり嬉しさが滲んだ。続いて、いくつかのアイデアの発表に移る。1番手「幼稚園ダンス」。みんなが笑顔になろうと、創作した歌とダンスを全力で踊り出すと、会場からは拍手が鳴り始め、それまでの

2024年11月16日、青山学院創立150周年は、皆で祝い、感謝し、「ちよっぴりハッピー」を分かち合う、青山学院らしい記念日となった。沼 由美 (青山学院総合企画部)

「誰かをちよっぴりハッピーに」―この言葉に、ごく自然に共感する学生・生徒・児童・園児たちの想いは、冒頭の動画に見た宣教師やそれを支えた日本人の想いに重なる。その日、表彰式に臨む彼らの姿は、自分に与えられた賜物を生かし誰かを

堅苦しさを忘れさせた。2番手、初等部と中等部の生徒のアイデア。フィリピンの現地で見聞きしたこと、自分を振り返り、できることは何かを考え、それを実行することを力強く誓った。最後は社会問題となっているオーバートーリズムを日本古来の風習でいくつもカバーするアイデアを発表、大学生らしくビジネスの切り口も加えたアイデアだった。

事務局長 沼 由美  
今号では百年史を歴史物語として捉えた啓明学院、ルuterlinター小学院の開設、山梨英和通信制コース開設、青山学院150周年希望の未来図コンテストの記事を掲載しました。新しい観点から、取組みがキリスト教

事務局長 沼 由美  
今号では百年史を歴史物語として捉えた啓明学院、ルuterlinター小学院の開設、山梨英和通信制コース開設、青山学院150周年希望の未来図コンテストの記事を掲載しました。新しい観点から、取組みがキリスト教

「機関紙に載せる写真を撮って！」と気軽な気持ちで写真部の生徒にお願いをしたところ、「では一眼レフを持ってきます」とのこと。ただでさえ重たいカバンを持って登校するのに、重たいカメラまで申し訳ないと思い、私のデジカメでいいよと伝えたところ、「妥協したくないので！」と一言。「私ごときのためにそこまでなくていいのに…」と思いつつ、ありがたく生徒の思いを受け取ることになりました。さて、今回のテーマはキリスト教の「神」です。その「神」が聖書にはどのように表されているかを見ていきましょう。たくさんご紹介したい御言葉はあるのですが、旧約新約から一つずつご紹介いたします。まずは旧約聖書の申命記から「あなたのただ中におられるあなたの神、主は熱情の神である。」(6章15節)。次に新約聖書ヨハネによる福音書から「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、

- <行事予定>  
※予定は状況により変わることがあります。  
1/17~18 第67回小学校代表者研修会 (北陸学院小学校)  
6/13~14 第113回定時総会 (北星学園大学)  
11/7~8 第67回中学校代表者協議会 (青山学院)

事務局長 沼 由美  
今号では百年史を歴史物語として捉えた啓明学院、ルuterlinター小学院の開設、山梨英和通信制コース開設、青山学院150周年希望の未来図コンテストの記事を掲載しました。新しい観点から、取組みがキリスト教

永遠の命を得るためである。」(3章16節)。距離を取らずに熱くあなたと関わろうとする神。イエス・キリストを私たちの罪の身代わりとして十字架にかけられるほどに、あなたを愛する神。つまり、愛することにおいて、冒頭に登場した生徒のように妥協したくない神。それがキリスト教の「神」です。そもそも命がけで愛してほしいなんて頼んでいないし、私ごときのためにそこまでしなくてもいいのに…と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし神は見返りを求めている訳ではありません。ギブアンドテイクが成立する程度に、中途半端に私たちを愛している訳ではないのです。キリスト教学校に勤めているからといって(勤めているからこそ)、何から何まで信じるのは難しい。でも愛することに妥協したくない神の愛を、素直に受け取って損することはないのではないのでしょうか。日々の仕事に時に翻弄され、時に忙殺される中でも、自分を愛することと他者を愛することに妥協しない私たちでいたいと思います。なぜならイエス・キリストを身代わりに十字架にかけられるほどに、尊く価値あるものとされ、一切の妥協なく神様に愛されているのが私たちだからです。「隣人を自分のように愛しなさい。」この生き方を戯言や綺麗事に終わらせず、実現可能なものへと導く神、それがキリスト教の「神」なのです。  
\*2025年は横浜共立学園中高、女子学院中高、関東学院六浦中高の先生方が担当されます。

事務局長 沼 由美

事務局長 沼 由美

事務局長 沼 由美

長の閉会挨拶と、ノートルダム女学院栗本嘉子学院長の閉会挨拶により、この講演会が閉じられました。感謝をもって報告いたします。  
榎田真実 (玉川聖学院中高等部長)

できるハンドベルの音色が静けさを招き、創立150周年記念式典が始まりました。礼拝を守り、続いて式典を執り行う。幕開き、映し出された動画は、1874年に遡り「自らの使命を深く認識し、青山学院と、すべての人と社会のために仕えたい人々がいました」と語りかけ、青山学院の歩みが、3人の宣教師の厚い信仰と志、それを支えた日本人の存在、彼らの人生と共にあったことを伝えていた。

「希望の未来図コンテスト」紹介ページ



アイデア発表の様子